

〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19  
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺  
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796  
発行人 山崎 哲  
編集長 仲井 真裕  
印刷 大進ラベル印刷(株) 03-3787-3621



大悲に生きる人とあう  
願いに生きる人となる



湯島聖堂(大成殿・孔子像) 文京区

## 今月の予定

### 9月

- 11日(土) 午後5時半 同行会「宗祖親鸞聖人」に聞く  
法話: 山崎住職
- 12日(日) 午後2時 燈虹塾オンラインセミナー
- 15日(水) 午後1時半 婦人会聞法会
- 18日(土) 午後1時半 定例聞法会
- 20日(月)～26日(日) 秋季彼岸会
- 22日(水) 秋季永代経法要  
法話: 山崎住職・大橋副住職

### 10月

3日(日) 城西ブロック会聞法会

※コロナ禍でありますので、予定は変更することがあります。  
詳しくは寺務所までお問合せください。

## 顧問の一言

親鸞聖人と他の宗祖との根本的な違いは「賜る信心」と「行ずる信心」。仏より賜る信心が念仏の要です。  
私が仏を信ずることの根本的な違いを明らかにしていきたいと思います。





## 9月の山門の言葉



### 根無し草な私の誓い 揺らいでばかり

下の子どもが生まれる時、妻と固く誓ったことがある。上の子に「お兄ちゃんなんだからしなさい」や、「お兄ちゃんなのにどうして〜できないの」は、絶対に言わないようにしようという誓いである。あれから一年半以上経過し振り返ってみると、あれほど固く誓ったはずなのに、ついつい口を滑らせてしまう。自分の発した誓いへの無責任さと、不甲斐なさには正直息子には申し訳ない思いでいっぱいである。

申し訳ないと思っているならば、改善すればいいだけの話だが、これがなかなか難しい。意識すればするほどドツボにはまっていく。なぜ誓いを果たし遂げられないのか。

一言でいうと、一つのこと心に心を留めておくことができないからであろう。一年の始まりに「今年こそは」と抱負を掲げる。果たしてどれだけの人が、今その抱負を覚え、実践しているだろうか。私たちの誓いや決心とは非常に脆いものだ。

しかし決してそのことがダメなのではない。親鸞聖人が「煩惱具足の凡夫」と、煩惱に振り回されて一つに定まることができないことを一生涯の課題とされたように、心が揺らぐことは、私の身の事実なのだ。大事なことは、誓いを果たし遂げることができない我が身であることを知ることである。

子どものためにと誓いを立てたことが、はからずも私が根無し草であったことを露わにした。自分のことはよく見えているようで、実は見えていない。子どもという鏡に映し出されることによって、初めて私の姿がよく見えてくる。

(蓮井 邦宗 記)



八月に掲げた  
山門の言葉を  
皆さんはどう  
聞いたのか、  
お尋ねしました。

みんなは  
こう聞いた!!



毎日「子供のために」「家族のために」「あの人のために」と色々考え選択しながら生きているが、その結果が思うようにいかなかった時、自分に自信が持てなくなってしまう。

しかし、自分ではどうにもならないこともある。受け入れるしかない。と思えるようになった時、気持ちが楽になったことを覚えている。

(40代 女性)



「産み控え」は、小生の年代が特徴的です。昭和20年生まれです。人口のグラフに特異的な欠落があります。

戦争が始まった頃には、「産めよ殖やせよ国のため」というスローガンがありました。子供を作ろうとしても、男たちは兵隊にとられていました。昭和20年3月の空襲では、東京の下町で10万人以上の方が亡くなっています。

母は、よその女性から「あなた、こんな時代によく産むわね」と言われ、冷水を浴びせられた気持ちになったそうです。終戦直後の食糧難による栄養失調や、抗生物質もない時代の疾病で亡くなった幼い命が沢山ありました。

与えられた命です。そう思うと、人と人のご縁を大事にして生きてゆきたいものです。

(70代男性 教員)





## 秋季永代経法要のご案内

約50年ぶりの東京開催となった夏季オリンピックが閉幕し、気が付けば今年もあと4か月となりました。コロナに翻弄され、日々の生活に追われ、息つく暇もなく1年が終わろうとしています。

年末を迎える前に、ここで一旦呼吸を整え我が身を振り返ってみてはいかがでしょうか。仏法は我が身を照らす鏡であると教えられます。共に永代経法要をお勤めし、年末へ向けての栄気を養いましょう。どなたでもお参りいただけます。

秋季彼岸会 9月20日(月)～9月26日(日)

秋季永代経法要 9月22日(水) 午後1時半～ 永代経法要  
午後2時頃～ 法話(山崎住職・大橋副住職)

※新型コロナウイルス感染状況を鑑み、申し込み制といたします。参加予定の方は事前にお寺(☎03-3875-3351)までお電話ください。感染対策をいただきまして、お参りください。



山崎住職



大橋副住職

## 燈虹塾オンラインセミナー

ほぼ毎月、燈虹塾理事・もしくはご縁のあるご講師をお招きして、江戸文化を学ぶ燈虹塾オンラインセミナー。今回8月4日は「樋口一葉と龍泉寺町 ～『たけくらべ』誕生の地に越した本当の理由～」と題し、西徳寺がある竜泉の地に昔住んでいた樋口一葉について、下町風俗資料館・近藤直子先生にお話していただきました。

樋口一葉が龍泉寺町にいたのは今から約130年前。当時の様子を一葉は「鶺鴒なく聲もきこえて花すゝき まねく野末の夕べさびしも」と詠われました。ウズラがいたり、すすきが揺れ田んぼが広がる、のどかな土地であったことと読み取れます。

一方、龍泉寺町と目と鼻の吉原はどうだったか。明治28年「東京名所『吉原京町通』」を見ると、当時珍しい三階建ての建物、そして行き交う人々もお洒落なことが分かります。同じ場所で、こんなにも違う風景だったことに樋口一葉は驚きを隠せなかったのではないのでしょうか。また、そういう特異な場所だったからこそ、作品制作につながったのではないかとご講義いただきました。

今日の台東区竜泉は高層マンションが建ち並び、田園はどこにもありません。しかしこのような文化作品によって、いつまでも当時の様子を伺えることに有難さを感じました。  
(事務局・高橋 記)







## 坊さんのツブヤITTER



### @テッシン



「一緒に・・・」、コロナ以前は当たり前だった。「同じ空気を吸う」ような時間が愛おしい日々。365日、朝のお勤めをしているのだけでも、最近、一緒にお参りして下さる方が増えた。なぜ今になって?不思議に感じる。コロナになったからこそなのだろうか?

先月から写経会を始めた。そのきっかけは一人の青年。話を重ねるうちに湧いてきた「一緒にやろうよ!」という言葉。

一人で黙々と出来るのがお勤めであり写経だが、一緒に出来ることに大きな喜びや不思議さを感じる。同じ空間で同じ方向を向くことは身近にある贅沢なのかもしれない。

## えこお志お礼

|      |          |
|------|----------|
| 三重県  | 東光寺 様    |
| 小平市  | 大平 一夫 様  |
| 品川区  | 市田 幸子 様  |
| 葛飾区  | 宮崎 佐久恵 様 |
| 神奈川県 | 齊藤 祐三 様  |
| 練馬区  | 轟原 修 様   |

ご浄財を頂戴いたしましてありがとうございます。  
ご芳名の掲載をもってお礼とさせていただきます。

## 内愚外賢

～賢者の信を聞きて、愚禿が心を顕す～

トラブル続きではありましたが、東京オリンピックが無事に閉会式を迎えました。スポーツが好きな私も、普段は馴染みのない競技を楽しみ、日本人選手の活躍に感動させてもらいました。

特に今大会は、「多様性と調和」がテーマだったようで、男女の団体戦等、新たな試みが多く見られました。

多様性といっても簡単に受け入れられるような綺麗事だけではないと思います。いくら共通点があったとしても、一人ひとり生きている環境は大きく違います。共存共栄する為の制度には時間がかかりますし、どこかに限界もあるでしょう。まず分け隔てることしかできない私であるという痛みから、調和の道が始まるのかもしれないですね。

(仲井 真裕 記)



えこおに対するご意見・ご感想、お待ちしております。

✉ [saitokuji@ce.wakwak.com](mailto:saitokuji@ce.wakwak.com)



ホームページ

ゆうちょ銀行お振り込み口座  
00120-0-80670 名義 西徳寺



Facebook

「二代墓地」、各種墓地、受付中。墓石への法名刻みはお問い合せください。